

平成 28 年度事務事業評価表(公共事業・継続)

No. 422

事務事業名	都市再構築戦略事業(大村中心地区第2期)
-------	----------------------

作成日	平成 28 年 9 月 30 日		
部局名	都市整備部		
課名	都市計画課		
課長名	桑原 盛雄	内線	430
担当者名	田淵 真也	内線	431

基本目標	050101	機能的で環境と調和したまち
政策		コンパクトで暮らしやすいまちづくり
施策		計画的な土地利用と都市拠点機能の充実
関連施策		

会計	一般会計	
款	08	土木費
項	05	都市計画費
目	01	都市計画総務費
事業コード	130200	都市再構築戦略事業

事業類型	7	施設等整備事業(負担金含む)
個別計画		
重点事業		

【PLAN(計画)】

対象(者) 誰(何)に対して事業を行うか	大村中心地区(第2期)都市再生整備計画区域		
意図 対象をどのような状態にしたいか	都市再生整備計画(大村中心地区第2期)に基づき、中心拠点誘導施設の「県立・市立一体型図書館及び市歴史資料館」整備を核施設として、周辺施設や商店街、アーケードへのアクセス道路改修などの周辺環境整備を行い、誰もが利用しやすい歩行空間を確保することにより、交流人口の増加と賑わいの創出に寄与する。		
事業概要 意図を達成するために実施することは何か	<ul style="list-style-type: none"> ○道路整備 図書館整備に伴う右左折レーンの設置や、歩道の拡幅及びバリアフリー化を行い、利便性の高い道路環境を創出する。 ○高質空間形成施設整備 歩道のバリアフリー化や路側のカラー化など、安全・安心な歩行空間の創出を図る。 		
事業期間	平成 26 年度 ~ 平成 30 年度	実施方法	補助

成果指標名	歩行空間の整備率			算定式等	整備区間(km) / 計画区間(km) × 100(%)	
着手前現状値	平成 25 年度	単位	%			0
完了後計画値	平成 30 年度					100

【DO(実施)】

事業実施項目	25年度まで	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画
基本計画	実績・計画額							
	項目別進捗率							
実施設計	実績・計画額				2,000			2,000
	項目別進捗率	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
用地・補償	実績・計画額				18,000	40,000		52,500
	項目別進捗率	0.00%	0.00%	0.00%	34.29%	110.48%	110.48%	110.48%
建設工事	実績・計画額				34,000	249,500	223,090	512,090
	項目別進捗率	0.00%	0.00%	0.00%	6.64%	55.36%	98.93%	98.93%
事務費等	実績・計画額				1,000	14,475	11,155	26,630
	項目別進捗率	0.00%	0.00%	0.00%	3.76%	58.11%	100.00%	100.00%
合計	実績・計画額	0	0	0	55,000	303,975	234,245	593,220
	項目別進捗率	0.00%	0.00%	0.00%	9.27%	60.51%	100.00%	100.00%

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画
① 事業費(千円)	0	0	0	55,000	263,600	274,620	0	593,220
国庫支出金				27,000	129,800	137,310		294,110
県支出金								
地方債				25,200	120,400	123,500		269,100
その他								
一般財源				2,800	13,400	13,810		30,010
② 人件費(千円)	0	0	4,087	4,993	事業内容	3	事業内容	B/C
職員人数(人)			0.50	0.60	・道路改良 ・歩道バリアフリー化 ・路側のカラー化	・道路改良 ・歩道バリアフリー化 ・路側のカラー化		
時間外勤務(時間)			280	315				
嘱託等人数(人)								
フルコスト(①+②千円)	0	0	4,087	59,993				

※財源内訳中の「その他」には、保険料・寄付金・基金・利用料等の収入を記入しています。

【CHECK(評価)】

事業の進捗状況 <small>昨年度の評価から、どのような取組をしましたか(昨年度の【ACTION】の改善・改革の進捗等)</small>	平成27年度に「市道八幡町線」の設計業務の一部を実施した。また、本年度に道路整備のための用地交渉が成立したことから、交差点改良を主とした残り区間及びその他計画路線の設計業務を行い、本年度中の工事着手を目指す。
事業が抱える問題・課題等	隣接する「県立・市立一体型図書館及び市歴史資料館」の建設工事の進捗に合わせた道路整備が必要であるため、多岐にわたる調整が必要となる。

妥当性	【必要性】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	都市再構築戦略事業における中心拠点誘導施設である「県立・市立一体型図書館及び市歴史資料館」整備により、車両や歩行者等の増加が見込まれるため、右左折レーンの設置をはじめ、歩道の拡幅やバリアフリー化などの整備を行うことにより、誰もが安全・安心で利用しやすい道路環境を創出する。						
有効性	【緊急性】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	中心拠点誘導施設である「県立・市立一体型図書館及び市歴史資料館」建設工事の進捗に合わせた周辺道路整備を行う必要がある。						
効率性	【施策成果】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	中心拠点誘導施設である「県立・市立一体型図書館及び市歴史資料館」整備と合わせて周辺道路整備を行うことにより、相乗的な効果が期待され、利用者の増加や交流人口と賑わいの創出に資する。						
妥当性	【コスト】	削減の余地なし		削減の余地あり		該当なし	
	大村中心地区(第2期)都市再構築戦略事業は、5ヶ年計画で事業採択を受けており、計画に位置付けたそれぞれの事業に対し、社会資本整備総合交付金(補助率50%)の活用が可能である。						
有効性	【負担割合】	見直しの余地なし		見直しの余地あり		該当なし	

【ACTION(改善・改革)】

今後の方向性	現状維持	
--------	------	--

内容 <small>今後の方向性のもとで、どのような取組をするか(課題や問題点等に対する取組など)</small>	「県立・市立一体型図書館及び市歴史資料館」整備に合わせて、安全・安心で利便性の高い道路環境の整備を行う。
効果 <small>事業の改善・改革によって期待される効果は何か</small>	アクセス道路の機能向上や利便性の向上などにより、「県立・市立一体型図書館及び市歴史資料館」をはじめ、「コレモおおむら」「中心市街地複合ビル」などの核施設の利用者や、その他周辺施設、商店街・アーケード利用者の増加を促し、交流人口と賑わいの創出が期待される。

1次評価	今後の方向性	担当者意見のとおり		2次評価	対象外	今後の方向性
	終期設定				終期設定	
	意見等				内容	

※1次評価は事業担当課長等、2次評価は2次評価委員会によって行われます。